

春爛漫の四月二日、この日、私ども長崎国際大学スタッフは、これから始まる数年間、充実した時間とならんことを願いつつ、心から新入生諸君を歓迎いたします。

昨年、我々人類はコロナ禍に巻き込まれ、未曾有の苦しみを強いられることになりました。高校生だった諸君は授業、部活動、様々なイベント、そして受験勉強にも幾多の障壁があり、さぞ息苦しい中で時間が流れたのであろうとご推察申し上げます。

この一年間、我々は「三密を避ける」ことを強いられましたが、そもそも学生生活とは、密に接触を図り、密に言葉をかわし、密に心を通わせながら勉学をそして部活動をエンジョイするものであります。

一度しかない人生です。我々は立ち止まってばかりはいられません。長崎国際大学ではこの新型コロナウイルス感染症と立ち向かうため、医学部を持たない大学としては我が国で初めて、PCRセンター、そして診療所を設立し、本学学生、教職員、そして長崎県北の人々に資する活動を行って参りました。その結果、わが大学では、この一年、学園内では全くクラスターが発生しませんでした。本年度はこうした新たな施設をフルに活用しながら、この一年学習してきた対処法と経験に基づき、遠隔授業のみに頼るのではなく、対面授業は七割以上を確保し、部活動、アルバイトなどに対しても、できる限りサポートして参る所存であります。

新入生の諸君にはこうした環境のもと、規律を守りながら学園生活を満喫して欲しいと希っております。

さて人生には四つの貯蓄が必要だと申します。第一に知識の貯蓄、第二に友人の貯蓄、第三に健康の貯蓄、それが揃って初めて四つ目のお金の貯蓄ができる、と言ったのは大阪銀行頭取、石原保氏であります。「命短し恋せよ乙女、心の炎消えぬ間に」竹久夢二が「ゴンドラの唄」の詩に思いを込めたように、まさに「青年老いやすく学成り難し」。あつと言う間の学生生活ですが、寸暇を惜しんで、良い本を読み、心揺さぶられる映画を観、音楽・絵画に触れる機会を持ち、スポーツも、恋もして、知識と友人、健康を貯蓄していきながら、*only one*としての自分を追求して欲しいと思います。

これから始まる対 面授業に関しては、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターが強く推奨しているように、毎朝9項目の健康チェック事項をチェックした後通学し、少しでもおかしいと思ったら、利休庵診療所を受診し、必要に応じてPCRを受けてください。そして夏には始まるワクチン接種を本学で行いますので、それを受けていただければ、この閉塞的な状況は秋にはきつと収束に向かって動き出すと信じています。かく言う私自身も、学長としての執務をこなしながら、医師として診療に、そしてワクチン接種に、陣頭指揮を執る「コロナ戦士」になる覚悟であります。

「戦う君の唄を、戦わない奴らが笑うだろ。ファイト！冷たい水の中を凍えながら登っている」と中島みゆきは「ファイト」という唄の中でエールを送っています。あとほんの少しの辛抱です。共にコロナ禍と戦いながら前へ前へと歩んで参りましょう。

令和三年四月二日 長崎国際大学学長 安東 由喜雄